

# プログラム

## 第1部

Friday night fantasy

スマイル

虹の彼方に

Cinema Paradiso (Se)

Brucia la terra (愛のテーマ)

Il bacio (口づけ)

さくらんぼの実る頃

バラード第1番 ト短調

## 第2部

牧羊曲

ラストエンペラーのテーマ

Waltz

ゴンドラの唄

ハナミズキ

Color of the wind

メドレー「人生のメリーゴーランド～世界の約束」

夏の夜の博覧会はかなしからずや

「Il bacio (口づけ)」は華やかなワルツの演奏会用アリア。実在の犯罪者をモデルにした映画『犯罪王デリンジャー』(M.ノセック監督)の終盤、FBIの追手が迫り神経質になっていたデリンジャーが、恋人に誘われて気晴らしに劇場へと出かける際、街中の手回しオルガンからさりげなく聴こえてくるのがこの曲の旋律です。

「さくらんぼの実る頃」は、映画『紅の豚』(宮崎駿監督)で、飛行艇乗りたち皆が憧れるマダム・ジーナが歌うシャンソン。失恋の悲しみが歌われた詞には、戦いで命を落とした人々を悼む思いも重なります。

映画『戦場のピアニスト』で、廃墟に身を隠していた主人公のユダヤ人ピアニスト、シュピルマンは、ドイツの将校ホーゼンフェルトと鉢合わせます。そこでピアノ演奏を所望されて奏でるのがショパン作曲「バラード第1番 ト短調」。雪が静々と降る月夜に滲みわたるようなピアノの音色は、将校の心を解かしたのか、シュピルマンは命拾いします。

## 第2部

「牧羊曲」は映画『少林寺』(張鑫炎監督)で、修行に励む主人公が出会った少女（師匠の娘）白無瑕が歌う曲。身近な光景や日々の暮らしの営みが素朴に愛らしく歌われます。本日は二胡とピアノの演奏でお聴きいただきます。

「ラストエンペラーのテーマ」は、愛新覚羅溥儀の生涯を描いた歴史映画（B.ベルトルッチ監督）のために音楽担当の坂本龍一が書いたテーマ曲。監督の強いこだわりも反映してか、本作品のサウンドトラックは東洋風の旋律を駆使しつつ、二胡をはじめとする東洋の伝統楽器と西洋の管弦楽、シンセサイザーを融合させた音響で、単なる異国情緒にとどまらない独特な魅力を放っています。本日は二胡とピアノの演奏で、映画とはひと味違った響きをご堪能ください。

日本を代表する作曲家の一人として国内外から愛され続ける武満徹は、映画音楽においてもその才能を如何なく発揮しました。「Waltz」は阿部公房の同名作品を原作とする映画『他人の顔』(勅使河原宏監督)のために書かれた一曲で、ビヤホールで前田美波里演じる歌手が披露する劇中歌として登場します。

中山晋平作曲「ゴンドラの唄」は、「いのち短し、恋せよ少女」の歌詞で有名な歌謡曲。映画『生きる』(黒澤明監督)においては、劇中では余命宣告を受けた後に繰り出した歓楽街の場面と、たいへん印象的なラスト・シーンで登場します。雪の降りしきる中、主人公はブランコに揺られながらこの歌を口ずります。命の尊さと儚さをかみしめるような意味合いが生まれています。

「君と好きな人が百年続きますように」の歌詞が印象的な「ハナミズキ」は一青窈作詞、マシコタツロウ作曲によるヒット曲。人の縁や絆を確かめる機会に歌い継がれているこの曲をモチーフに、リリースから6年後の2010年に土井裕泰監督、新垣結衣・生田斗真主演で映画が制作されました。

「Color of the wind」はアニメ映画『ポカホンタス』の劇中歌・エンディング曲で、ディズニー映画の人気作品の音楽担当として八面六臂の活躍をするアラン・メンケンの手による曲。アメリカ先住民の主人公ポカホンタスが入植者スミスに対して、価値観の異なる他者や自然を尊重することの大切さを優しく歌いかけています。この曲を通じて二人は心を通い合せます。

ジブリ映画のほとんどの音楽を担う久石譲は、作品ごとの世界観と見事に合う多彩な楽曲の数々を生み出しています。「人生のメリーゴーランド」はアニメ映画『ハウルの動く城』(宮崎駿監督)のテーマ曲で、さまざまに変奏されて劇中に繰り返し登場します。「世界の約束」は本作品の主題歌で、この2曲は、エンディングで見事に融合します。本日はメドレー形式でお聴きください。

主催

最後を飾るのは、高橋悠之輔作曲「夏の博覧会は、かなしからずや」。亡き子との思い出が綴られた中原中也の詩には、何気ない日常の光景から甦る淡い喜びと、それが喪失した悲しみとが繰り返し思ひ起こされています。3連符が印象的な旋律によって中也の詩が美しく歌われますが、ときとして言葉にならぬ思いは二胡やピアノに託されます。

(成田麗奈／音楽学)

## 楽曲解説

映画において、音楽は欠かせないものと言ってよいほど重要な存在でしょう。効果音やBGM、作品内で演奏・再生・放送される音楽、作品や番組の最初や最後を飾る音楽は、鑑賞者を映画の世界へと強く引き込みます。本日は、映画に関わる名曲の数々をお楽しみください。

### 第1部

演奏会の幕開けを告げるのは「Friday night fantasy」。日本テレビの依頼により「金曜ロードショー」のテーマ曲として作曲されました（1985-1997年放送）。哀愁漂う曲調で、印象的なトランペット・ソロを本日は二胡が担い、刀根麻理子作詞による情感豊かな歌唱も続きます。

C.チャップリン作曲「スマイル」は、映画『モダン・タイムズ』(チャップリン監督)の終盤、自由を求めて逃亡する途上、人生を憂い涙する少女をチャップリン演じる主人公が励まし、笑顔を作つて二人で歩き出す場面で印象的に流れる曲です。本日は1954年に詞と曲名がつけられた歌曲版をお聴きいただきます。

「虹の彼方に」は、映画『オズの魔法使い』(V.フレミング監督)の序盤、主人公のドロシーが、「虹の彼方の向こうに」あるどこかよい場所を夢見て歌う曲。その後ドロシーは竜巻に巻き込まれてオズの国へと運ばれていきます。「Cinema Paradiso」は映画『ニュー・シネマ・パラダイス』(G.トルナトーレ監督)のテーマ曲にイタリア語の歌詞がつけられた曲。主人公の映画監督サルヴァトーレの若き日々への追憶と映画への愛があふれるこの作品の特徴をとらえた、感傷や郷愁を呼び起す一曲です。

映画『ゴッドファーザー』(F.コッポラ監督)シリーズのテーマ曲として親しまれている「愛のテーマ」は、第3作の劇中でシチリア語の歌詞がつけられた「Brucia la terra」として歌われます。これは主人公マイケル・コルレオーネの長男アンソニーが父を思つて歌う劇中曲で、アンソニーは「シチリアに伝わる民謡だ」と語っています。情熱的な歌詞が添えられたことで、名旋律がより一層心を震わせます。